

小学部児童の医療的ケアにおける行動の改善について ～シールを好子として活用した実践～

板野支援学校 上田 みゆき

児童の実態



小学生1年生 男児 チャージ症候群
気管カニューレ挿入中

【コミュニケーション】

- ・手話
- ・話、実物、写真、絵を見せてジェスチャーにて説明

【医療的ケア内容】

- ・吸引
- ・経管栄養（胃瘻）
水分補給と昼のペースト注入

【医ケアにおける実態】

- ・物、人等興味をもったら無我夢中
- ・看護師の言葉かけにも応じず、吸引、バイタル、吸入拒否

保護者の願い

- ・ 体幹も強くなり、風邪知らず。体幹もしっかりして歩行にふらつきなし。
- ・ 指しゃぶりをやめて指先を使って作ったり、書いたりできる。
- ・ 物の名称を覚える。

教員の願い 個別の指導計画

【①健康・身体】 医療的ケアを受ける時に協力動作をすることができる。

（①健康の保持－（１）、（５）

【②学習】 写真や絵カードと実物・事象をマッチングすることができる。

正しく動作模倣をすることができる（④環境の把握－（２））

【③社会生活】 教師の言葉かけを聞いて落ち着いて行動することができる。

（⑥コミュニケーション（５））

学校における看護計画

長期目標

日常生活に医療的ケアを受け入れて生活リズムを整える。
(①健康の保持ー (1))

短期目標

- ・ 医療的ケアの時に複数の看護師が行うケアを担当がいなくても受け入れ協力動作姿勢をすることができる。
(① 健康の保持ー (5))
- ・ 医療的ケアを受ける時に協力動作である正しい姿勢を維持することができる。 (① 健康の保持ー (5))

手立て

【担任】

1日の学校生活の流れが把握できるように、1日のスケジュールを絵やイラストで示す。

【看護師】

- ・ルーティン化する流れを理解できるように事前に医ケアについてプレパレーションを行う。（取組①）
- ・協力動作である適切な姿勢を継続してできるように担任が正しい模範姿勢を示したり言葉かけしたりする。
協力動作ができたなら、できたねシールを渡して頑張りを褒める。（取組②）



プレパレーションとは

医療行為に対する小児の
不安や恐怖心を軽減し
治療に臨む為の心理的な
準備を整える為のプロセス

取り組み1 ルーティン化する流れを理解できるように事前に医ケアについてプレパレーションを行う。



実物とイラストのマッチング



実物とイラストを見せて説明
するとすぐ理解してくれた。



- ・吸引時首を下に向けて拒否あり。
- ・経管栄養時、足を動かす動作あり。
- ・SPO2測定時、すぐ指外す。

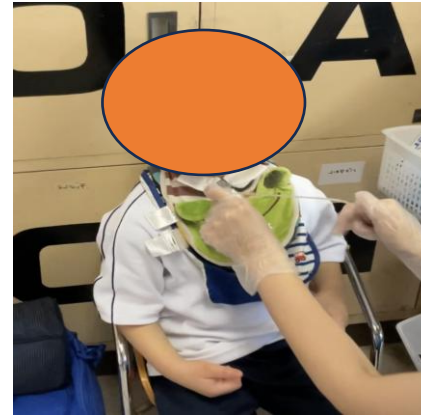
取り組み2

協力動作である適切な姿勢を継続してできるように担任が正しい模範姿勢を示したり声掛けしたりする。協力動作ができたら、できたねシールを渡して頑張りを褒める。

(1)吸引



①イラストにて吸引を行うことを説明する。



②協力動作姿勢の手本を示す。



③協力動作姿勢が継続できるように「賢い」等言葉かけを行う。



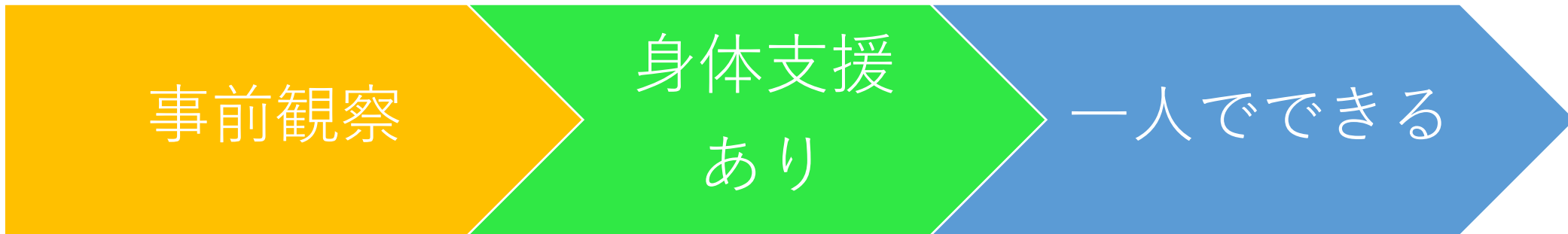
④協力動作姿勢ができたらしールを渡す。

実践の経過と評価

一ヶ月間下記の基準で評価に取り組んだ

	事前観察	1日目～22日目	23日目～30日目
日付	4/14～4/18	4/21～5/23	5/26～6/14
評価	×	△	○

×…できない
△…身体支援あり
○…一人でできる



事前観察

【実践初日】

吸引時は、首を下に向け、気切部を隠したり、看護師の声掛けにも応じず吸引拒否。

【身体支援あり】

吸引を受ける時の正しい姿勢の模範を示す。正しい姿勢で受け入れることができたならシールを渡して賞賛する。

【一人でできる】

担任の先生がいなくても看護師の言葉掛けで協力動作できる。

実践成果

初日



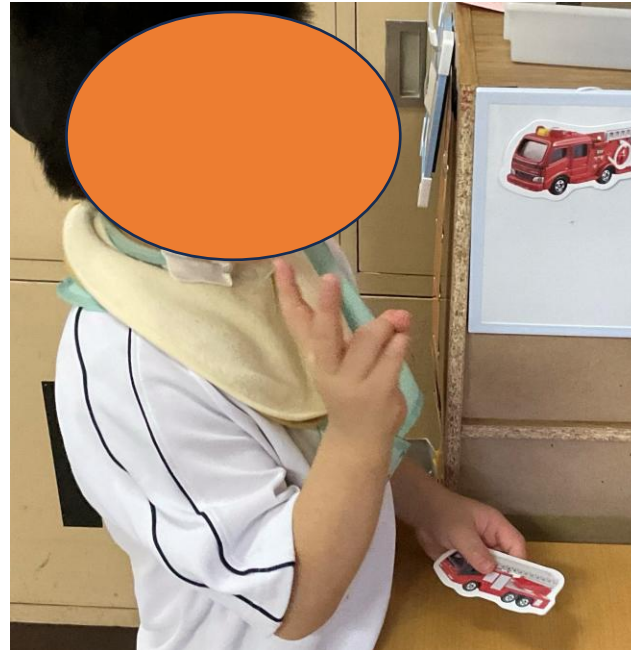
協力動作姿勢が
できていない。

実践開始中



協力動作姿勢が身
についてきている。

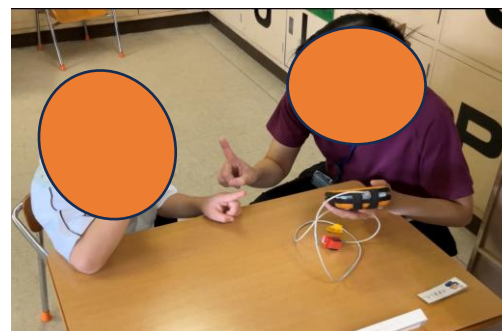
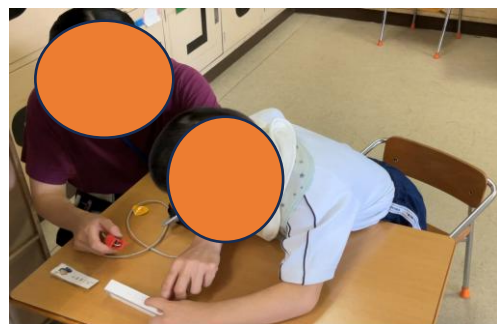
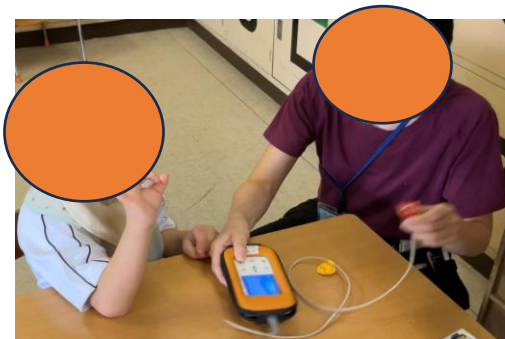
達成！



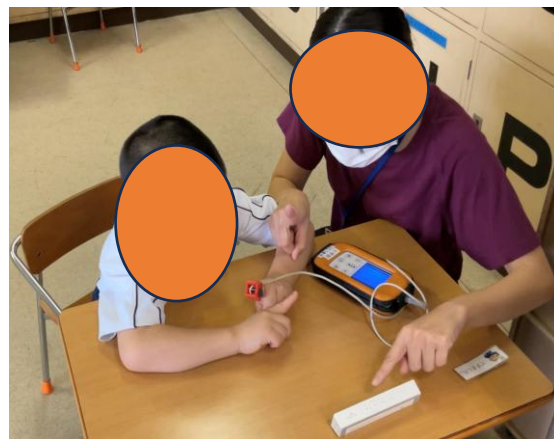
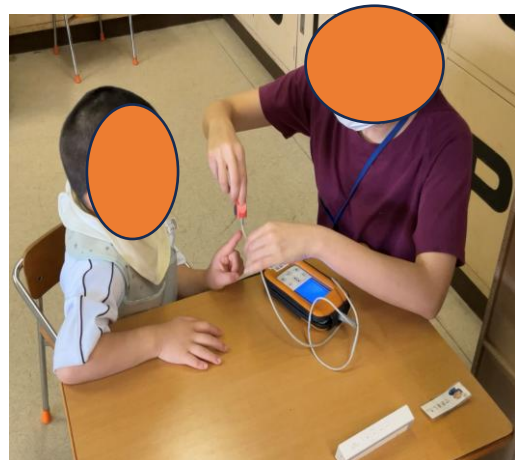
拒否することなく協力動作姿勢ができた。

(2)パルスオキシメーター

- ①機械の電源をつける。 ②タイマーを設定する。 ③ピシッ！ポーズを示し言葉かけで促す。



- ④機械を装着する。 ⑤タイマーを見ながら値が測定できるまで維持し続ける。



メモリが減る仕組みになっており、「視覚的にも終わりが見え、頑張ってくれるのではないかと担任の先生からアドバイスをいただき、実践してみる。

開始2・3日目

タイマーをよく見て意識してくれている。指を動かす回数が多かったので減らしたい
→方法の見直しが必要となり、担任の先生と話し合う場を設ける。

改善策

- ①測定にもう1度ピシッポーズの図を示し視覚的イメージを持たせる。
- ②機械を装着した指を押さえ維持することを意識付ける。【維持する支援】
- ③維持できている事が確認できたら、本児の指を看護師の指で支える。
【支える支援】

①



②

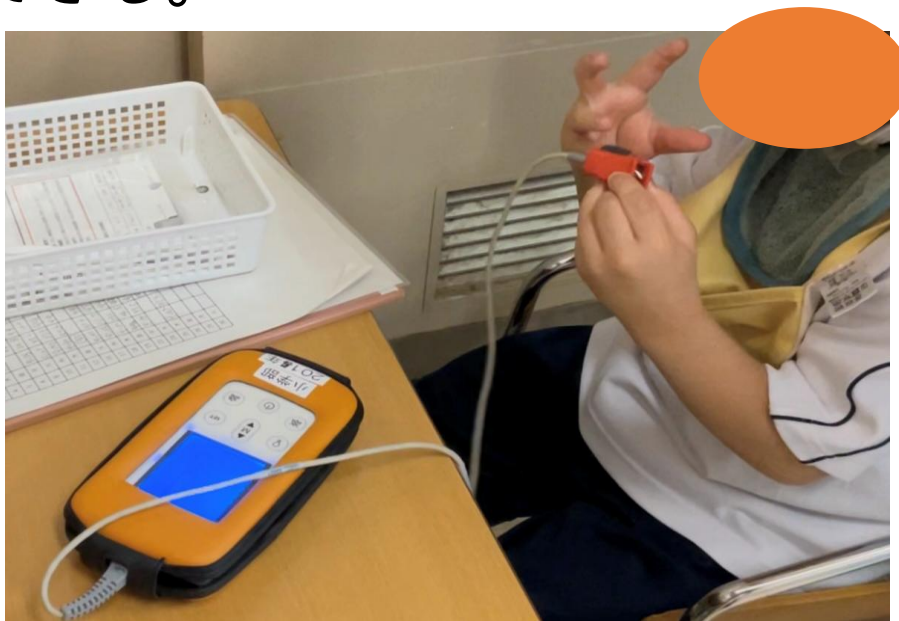


③



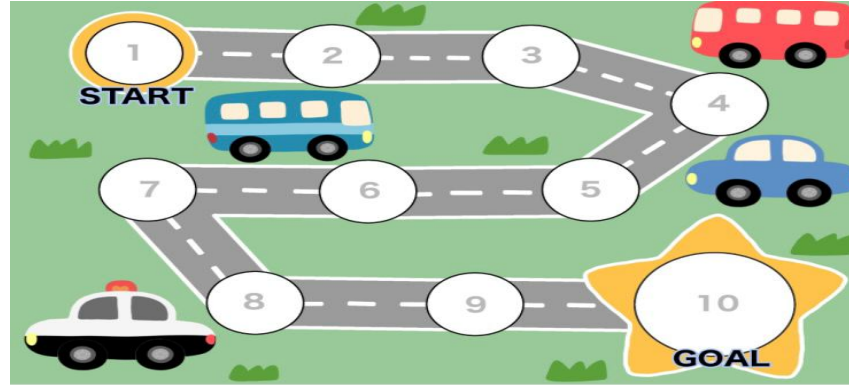
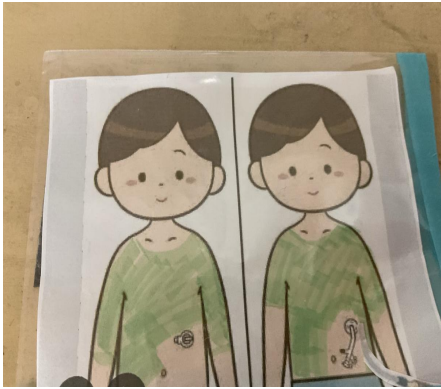
実践成果

- ・ 開始当初は、機械を装着する事が難しく、すぐ外したりしていたが、現在看護師の指の保持・指示がなくても指を曲げる・外すことなく維持できるようになった。
- ・ パルスオキシメーターの電源の付け方・消し方を説明すると理解し実践できる。
- ・ 体温計をケースから出し自ら脇に挟むことができ、測定後は、ケースに戻し片付けできる。



(3)経管栄養（水分補給と昼のペースト注入）

①注入のイラストとできたねシールを示してケアの見通しが持てるようにする。



②椅子に座り模範姿勢を見せて体勢を整える。



○ 上靴に描かれている顔が
近づくように足を揃える。



③「いただきます」の言葉かけと共に
注入を開始する。



④注入回数を一緒に数えたり言葉かけしたりする。



⑤注入終了後、「ごちそうさまでした。おしまい」
と終わりを告げる。

⑥「頑張って座っていられたね！」と頑張りを褒め、
シールを手渡す。

まとめ

- ①達成感・自己肯定感の向上
- ②学習意欲・モチベーションの維持
シールを貼る楽しさ＋他の教員に認めてもらう
- ③視覚的なフィードバック
- ④教員・看護師の専門性を生かし協働
- ⑤児童・生徒について情報共有